

教養部教官分属に伴う医学部の整備

医学部 中西 功夫

Reforms and Readjustments in the Faculty of Medicine Following the Abolition of the College of Liberal Arts and the Accompanying Relocation of its Teaching Staff

Isao NAKANISHI (Faculty of Medicine)

平成8年4月、数年の検討を経て教養部が廃止されたのを機に医学部においては医学科内に国際医療保健学講座及び国際環境保健学講座（共に博士課程，社会医学系）の2講座が増設された。国際医療保健学講座は，国際健康科学，国際協力計画学等を教育し，人材を養成する講座であり，旧教養部の保健体育定員2(教授1，助教授1)を振り替えて構成されたが，現員では，助教授2(藤原勝夫助教授、外山寛助教授)が医学部医学科に移行したものである。一方，国際環境保健学講座は，開発途上国に広範にはびこる感染症や健康と環境の相関，異文化について教育，研究することを目的とし，医学科内講師定員1名を教授に振り替え，旧教養部のドイツ語定員1(助教授1)を受け入れて構成された。現員の移行では，ドイツ語を英語学専攻に変え(平成8年2月評議会)，外国語教育研究センターへその助教授定員1名を貸し出し，教官研究経費として文系修士教官研究費相当額を外国語教育研究センターへ振り替えることで発足した。

従って，医学部医学科では従来の35講座から37講座へ，定員は3名（内1名は外国語教育センターへ貸し出し）の増員をみて，国際的視野に立つ医師及び医学研究者の養成に向けて教育・研究組織の整備が始まったわけである。

今回の整備の経緯については，医学部医学科が特に教養教育として身体・スポーツ系や言語系教育，専門教育として国際保健協力や異文化教育をも行える複合講座を増設して教養部教官を受け入れ，国際社会において日本が果たす時代の社会的要請に応えるべく整備

したものである。

しかし，残念ながら国際環境保健学は現員の助教授1名が外国語教育研究センターに所属している関係で，事実上は教授1名で発足せざるを得ないことになってしまった。従って，この新設2講座の充実には定員の返戻，学部内定員再配置等を必要とするものと思われる。